

活動報告書 2026

Activity Report 2025.4.1 - 2026.3.31

教育の力で、環境問題を解決する。

公益社団法人 日本環境教育フォーラム

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル1階
TEL : 03-5834-2897 / E-mail : info@jeef.or.jp
<https://www.jeef.or.jp/>



デザイン・東村ほのか





教育の力で、環境問題を解決する。

ご挨拶

日本環境教育フォーラム(JEEF)へのご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
JEEFの2025年度の活動を取りまとめた報告書をお届けいたします。
ぜひご一読いただき、JEEFへのご理解をさらに深めていただければ幸いです。

理事長挨拶



理事長 阿部 治

本報告書をご覧くださいと、JEEFの活動が国内事業、海外事業、ELMS センター、寄付金活用事業、ESD 活動支援センターと実に多岐にわたっていることに驚かれると思います。対象者は、幼児からシニアまで、さらに学校教員、企業社員、NPO/NGO 職員など全世代かつあらゆる職域に広がっています。そのため皆さまが関心を抱く事業（活動）を必ずや見つけることができるはずです。

これらの活動のほとんどは JEEF 単独ではなく、国内外のパートナー団体と共に実施しています。そして多様なネットワークを通じた取り組みにより、持続可能な社会の創造につながる環境教育を大きなムーブメントとして広げることができているのです。このことは、1987 年に山梨県清里で開催した清里環境教育フォーラム（現：清里ミーティング）を原点に環境教育推進ネットワークとして成立した JEEF の大きな特徴の一つといえます。

昨年度の清里ミーティングでは「自然にふれるよろこびを、すべての人に。」をテーマに、病気や障がい、経済的、地域的な理由に関わらず、誰もが自然体験ができる未来に向けてゲストや参加者の皆さまと一緒に学びあいました。私も含めた、おそらくすべての参加者が大きな刺激と感動を感じたのではないかと思います。今年は 40 回目の節目を迎えます。ぜひ多くの皆さまにご参加いただけたらと思います。

現在、紛争や戦争が拡大するだけでなく、人類共通の希望ともいえるパリ協定や SDGs の実行が危うくなるなど、世界は危機的状況に陥っています。このような時代だからこそ、JEEF は「体験と対話を重視した環境教育」、ESD（持続可能な開発のための教育）を通じた持続可能な社会の創り手を育てる活動に注力し、未来をつくる“希望”を育ててまいります。

皆さまのさらなるご支援をお願いします。

VISION ー実現したい社会

かけがえのないこの地球で、
次の世代も心豊かに、笑顔でくらしていけるように、
多様なパートナーと協働しながら持続可能な社会の実現を目指します。

MISSION ーわたしたちが取り組むこと

地球環境をはじめ、複雑に絡み合う様々な問題の解決に向けて、
表面的な知識を与えるのではなく、
『体験と対話を重視した環境教育』によって
「自ら課題を見つけ、学び、考えて行動できる人材」を育成します。

体験

- 実際にやってみることで、理屈だけでなく実感をもって学ぶことができる
- 試行錯誤をくり返す中で、柔軟な課題解決力が育つ
- 他の参加者と協働しながら、自分たちで学びをつくっていく力が育つ

対話

- 自然と対話することで、より自然に対して愛着を感じる
- 他の参加者の多様な考え方にふれることで、自身の視野が広がる
- ファシリテーター／インタープリターが学びの案内人として、学びを深める

JEEFの取り組み

これらの5つの事業を通して『体験と対話を重視した環境教育』に取り組み、持続可能な社会の担い手を育てます。

国内事業

多様なパートナーと共に、
「自然から / 体験から学ぶ環境教育」に取り組みます。

森・里・川・海での自然体験活動、学びを深めるワークショップ、出前授業、研修、講演、オンラインプログラムなど、幼児からシニアまで幅広い世代に学びと体験の機会を提供しています。

PICK UP!

環境教育で未来をつくる！ボーダレスなミーティング
『清里ミーティング 2025』

年に一度、全国から環境教育者が集い、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成について学びあう2泊3日の対話型イベントです。
2025年度は「自然にふれるよろこびを、すべての人に。」をテーマに、全国から102名が集いました。



P.9~

海外事業

地域住民の生計向上と環境教育の両立により、
人と自然の共生を目指します。

インドネシアやバングラデシュにおける住民主体の地域づくり、環境保全、海外からの招へい研修プログラム、環境教育を学び合う国際シンポジウムの運営などに取り組んでいます。

PICK UP!

バングラデシュ農村部における生計向上支援
『ヤシ砂糖生産と花卉農業の6次産業化プロジェクト』

貧困削減と環境保全の両立を目指した3年間のプロジェクトが完了し、農民主体で暮らしと環境を守る体制が整いました。
子どもたちは、環境保全や有機農業の推進について学びを深めました。



P.11~

ELMSセンター

科学者のように考える探究プログラムを通して、
地球環境について自ら学び、考える力と姿勢を養います。

HPはこちら



“正解が1つでない問い”に対して、子どもたちが実験をデザインし、話し合い、結論を導くプログラムを通して、未知の世界を探究するおもしろさに出会います。

PICK UP!

誰もが科学者・数学者！持続可能な社会を担う人づくり
『探究的な学び普及・研究事業』

親子講座、出張授業、オンラインワークショップなど、さまざまな形で全国の子どもたちに学びの場を提供するほか、探究的な学びのつくり方を伝える指導者養成講座など、子どもたちにゆたかな学びを届ける人材の育成も行っています。



P.13~

寄付金活用事業

ご支援いただいた寄付金や会費を活用して
「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」を提供します。

近年の社会変化による体験格差への取り組みとして、寄付金を活用し、身体的・経済的・地域的な理由で環境教育・自然体験プログラムの参加が少ない方々へ、機会を提供しています。

たくさんの“はじめて”があるキャンプ！



すべての子どもたちに
楽しい探究のチャンス！



ストレス社会で日々頑張る
大人の癒しの機会



P.15~



ESD 活動支援センター

HPはこちら



日本全国のESD※を支援していくために、民間団体との連携事業として文部科学省及び環境省によって2016年に設置された官民協働のプラットフォームです。2024年度より運営事務局を受託しています。

※ESD=Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育

事業一覧

	事業名	協働パートナー	主な対象者									
			幼児	小学生	中高生	大学生	大人	シニア	学校教員	企業社員	NPO/ NGO職員	その他
国内事業	清里ミーティング	自主事業				✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	東京ネイチャーアカデミー	自主事業					✓	✓				
	誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験	自主事業	✓	✓	✓	✓	✓	✓				
	市民のための環境公開講座	SOMPO ホールディングス、SOMPO 環境財団				✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	100年後に生きる子どもたちに感謝される森づくり	メットライフ生命、メットライフ財団	✓	✓	✓	✓	✓			✓		
	わたしの自然観察路コンクール	富士フイルム・グリーンファンド、三井住友信託銀行		✓								
	P LOVE GREEN	プロントコーポレーション								✓		
	次世代ネイチャースクール	(公財) 上廣倫理財団		✓								
	FUTURE KID TAKARA ワークシート開発業務	NHK エンタープライズ		✓	✓				✓			
	東京マラソン 2026 チャリティ	東京マラソン財団					✓					
	日本環境教育学会年次大会運営	日本環境教育学会				✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	ESD 活動支援センター運営業務	環境省	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	国立公園満喫プロジェクト人材育成支援業務	環境省、日本エコツーリズム協会					✓					
	教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修業務	環境省					✓		✓	✓	✓	
	環境教育・ESD 実践動画 100 選運営業務	環境省					✓		✓	✓	✓	
	日光国立公園インタープリテーション全体計画策定業務	環境省					✓			✓	✓	
海外事業	自然公園等利用者数等集計業務	環境省										✓
	NGO ラーニング・インターンシップ・プログラム in インドネシア	SOMPO 環境財団				✓						
	JAL スカラシッププログラム	JAL 財団				✓						
	キリンネイチャースクール in スリランカ	キリンホールディングス			✓							
	ジャカルタ湾岸マングローブ林再生事業	ダイフク、緑の募金、経団連自然保護基金					✓					
	ジャワ島西部国立公園におけるジャワギボンの保全を目的とした生態調査と環境教育プロジェクト	経団連自然保護基金		✓	✓	✓	✓	✓				
	日中韓環境教育ネットワーク (TEEN)	環境省										✓
	日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM) ユースフォーラム	環境省、海外環境協力センター				✓						
ELMSセンター	バングラデシュ・ジョジョール県の生計向上プロジェクト	外務省、BEDS		✓	✓	✓	✓	✓				
	探究的な学びの普及・研究	自主事業	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	探究的な学びの指導者養成	自主事業					✓	✓	✓	✓	✓	
	中学校理科出前授業	明電舎			✓					✓		
	「海とさかな」自由研究・作品コンクール	朝日新聞、朝日学生新聞、ニッセイ		✓								
	おそうじ科学実験＆おやこネイチャー楽校	サニクリーンアカデミー		✓			✓					
	海洋プラスチックのない世界を目指した環境教育プログラム	ジョンソン株式会社 (SC ジョンソン)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	エネルギー × 課題解決の親子講座	プライムプラネットエナジー&ソリューションズ		✓						✓		
	ハートフルラーニングキャラバン	ロート製薬、ピースウィンズ・ジャパン	✓	✓	✓		✓					

国内事業

多様なパートナーと共に、「自然から / 体験から学ぶ環境教育」に取り組めます。

PICK UP!

環境教育で未来をつくる！ボーダレスなミーティング

■自主事業 『清里ミーティング 2025』



39回目
の開催

102名
が参加

ワークショップ
16本

ポスター
発表
28組

「清里ミーティング」は年に一度、山梨県清里に全国から環境教育者が集い、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成について学びあう2泊3日の対話型イベントです。

身体的、経済的、地域的ななど、さまざまな理由から自然の中に出かけていくことが難しい人たちがいます。2025年度のテーマは「自然にふれるよろこびを、すべての人に。」と題し、多様な参加者のニーズに応えた、背景の異なる人々が共に過ごせるユニバーサルでインクルーシブな自然体験活動の取り組みを行っているゲストとともに、「自然にふれるという終わりのないよろこび」を、すべての人に届けたい想いと、それを叶えるためのヒントを参加者とともに探りました。

会期中は主催者・参加者企画のワークショッ

プやポスター発表、交流や出会いを促すコーナーやブース、ショップ、オプションツアー、参加者がゆっくり考えを消化する時間などを取り入れながら、世代も業種も超えた参加者同士が学びあい、議論が行われた熱気あふれる3日間となりました。

(現地開催事務局：キープ協会)



全国の小学生が生きものや自然の魅力を学ぶオンライン講座＆自然体験

116名
が参加

■(公財)上廣倫理財団〈特別協力〉『次世代ネイチャースクール』



生きものの専門家による講義や自然体験を通して、子どもたちが好奇心を育み、自ら疑問を見つけ、地球の未来について考えるきっかけとなる学びの場です。2024年度からはじまりました。

里山の動物や磯の生きものがテーマの全2回のオンラインプログラムと、千葉県・南房総での2泊3日の自然体験を実施。里山や無人島を訪問して山と海とのつながりを学び、生物多様性と私たちの暮らしとの関わりについて考える時間を過ごしました。

詳しくはこちら

NEW



地球温暖化学習アニメ FUTURE KID TAKARA

■NHKエンタープライズ『FUTURE KID TAKARA ワークシート開発業務』



深刻化する気候危機の中で、子どもたちが地球の未来を「自分ごと」として考えられる教材としてNHKエンタープライズとSTUDIO4℃によって地球温暖化学習アニメ『FUTURE KID TAKARA』が制作されました。地球温暖化や生物多様性、食糧危機などの様々なテーマで全11話が無料公開されています。

JEEFは授業づくりアイデアシートと子ども向けワークシートを監修しました。ぜひ、学校や環境学習の現場でご活用ください。

870名
が受講

全25回
開催

SDGs 達成に向けた環境教育・ESD 実践講座

■環境省〈主催〉、文部科学省〈協力〉『令和7年度教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修』



学校や地域で質の高い環境教育・ESDを実践・推進するリーダー人材を育成する研修事業です。

カリキュラムをデザインする実践力を養うコースでは基礎編のオンライン型研修、実践編の対面型研修、派遣希望先のニーズに対応する講師派遣型研修を実施しました。また、環境教育プログラムの実践力向上を目指すコースでは基礎編のオンライン型研修、実践編の「体験の機会のある場」に認定された事業者及びラムサール条約登録湿地・社会教育施設で体験型研修を行いました。

海外事業

地域住民の生計向上と環境教育の両立により、人と自然の共生を目指します。

PICK UP!

バングラデシュ農村部における3年間の生計向上支援

■ 外務省、Bangladesh Environment and Development Society(BEDS)
『バングラデシュ・ジョジョール県の零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の6次産業化を通じた生計向上プロジェクト』



収入が
+20%で
目標達成

135世帯
を支援

10校で
出前授業

ジョジョール県は、バングラデシュの冬の風物詩であるヤシ砂糖の生産や花き栽培が盛んな地域ですが、農村部では経済状況に問題を多く抱えています。そのため JEEF では、農産物の6次産業化や観光の促進を通して、自然環境に配慮しながら生産者たちが自ら暮らしを向上させていくための仕組みづくりを 2023 年から行ってきました。

生産者協同組合を結成し、生産商品の品質向上のための研修や商品パッケージの刷新、マーケティングの推進等を行った結果、組合メンバーの収入向上に大きく貢献し、「家を改築することができた」「子どもに高等教育を受けさせることができる」といった喜びの声を聞くことができました。また、女性メンバーが組合のリーダーとして活躍することで、農村部の女性たちのエンパワメントにも繋がりました。そして、小学校の先生と協働した環境教育では、環境保全や有機農業の推進について学びを深め、子どもたちを通して地域へと環境教育を広めて

ていくことができました。

本プロジェクトで建設した組合事務所および商品加工場は、地域の新しいランドマークとして地域住民の利用も始まっています。また、併せて建設した宿泊コテージを活用し、都市部などからの観光客に地域の魅力をもっと体感してもらうための取り組みにも注力していきます。プロジェクト終了後も、組合を自立運営し自らの力で生計向上を図っていく組合メンバーの取り組みを応援していきます。



次世代を担う子どもたちへ、キリンネイチャースクール

NEW

94名
が参加

■キリンホールディングス 『キリンネイチャースクール in スリランカ』



キリンホールディングスと協働し、スリランカの紅茶農園で働く人々の子どもたちが通う小中学校を対象に、環境教育プログラム「キリンネイチャースクール」を実施しました。

自然観察や対話を通じ、子どもたちが身近な自然や暮らしとのつながりを見つめ、自然の恵みや生物多様性への理解を深める機会を提供しました。JEEF は現地の文化や環境に配慮した授業内容の企画・設計を担いました。

エコツアー
2000名
が参加

10校で
出前授業

テナガザルを軸にした環境保全とエコツーリズム

■経団連自然保護基金

『ジャワ島西部国立公園におけるジャワギボンの保全を目的とした生態調査と環境教育プロジェクト』



2024 年 4 月から 3 年間のプロジェクトとして、インドネシアのジャワ島の固有種であるジャワギボン（ワウワウテナガザル）のモニタリング調査や保全活動と、エコツアーや小中学校での出前授業などの環境教育に取り組んでいます。また、熱帯雨林の生態系を学ぶビジターセンターの建設と、エコツーリズム事業実施のための体制づくりをサポートしています。地域住民の能力強化を通じた、住民が主役の環境保全と観光事業の両立を目指して現在も活動継続中です。

24名の
インターン生

8ヶ月間の
インターン

11の
環境NGOと
協働

インドネシアの学生が環境団体でのインターンを経験

■SOMPO 環境財団 『NGO ラーニング・インターンシップ・プログラム in インドネシア』



今回で第 7 期目となった NGO ラーニング・インターンシップ事業。2025 年度は 200 名を超える応募者の中から 24 名が選ばれ、11 の NGO 団体に分かれて 8 か月間のインターンを経験しました。

ワークショップ実施のサポート、ドローンを使った植林地のモニタリング調査など、オフィスワークだけでなく、現場体験を通じての問題解決の実践に取り組み、貴重な知識と経験を身に付けることができました。

ELMSセンター

「科学者になる」探究プログラムを通して、地球環境について自ら学び、考える力と姿勢を養います。

PICK UP!

誰もが科学者・数学者！持続可能な社会を担う人づくり

■自主事業 『探究的な学び普及・研究事業』



ELMS センター（Exploratory Learning in Math and Science; 科学と数学の探究的な学び）は、考えることが楽しくなるような科学と数学の探究的な学びを通して、自ら学ぶ姿勢をもった「自立した学習者」を育てることを目的に、公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）内に設立されました。

ELMS では、「科学者のように」をテーマに、子どもたちがロールプレイ、ゲーム、クラフトなど、実際にからだを使った、楽しさいっぱいの探究をします。そして、想像力と創造力を使い切り使いながら、実験をデザインし、探究し、話し合い、結論を導き出していきます。

環境問題をはじめ、現代社会が抱える様々な問題は複雑で、はっきりとした“正解”が定まらないものばかりです。一人ひとりの“違い”

が尊重され、“間違い”も学びの種とできる。未知の世界を探究するおもしろさと出会える。子どもたちは、そんなポジティブな学びを経験することで、前例がない状況の中でも自ら課題を見つけ、学び、考えて行動できる力を育んでいきます。

▶ HPIはこちら ▶



考える楽しさと出会うワークショップ！

■自主事業 『探究的な学び普及・研究事業』



子どもたちが自ら探究し、考える楽しさに出会うワークショップを、親子講座・出張授業・オンラインワークショップなど、さまざまな形で提供しています。また、探究的な学びのつくり方を伝える指導者養成講座で、持続可能な社会づくりを担う人材育成を行っているほか、環境問題について単に知識を知るのではなく、子どもたちが体験を通して自分ごととして考えられるようなプログラムの開発とワークショップを、全国の企業・団体と共同で行いました。

42名の
指導者が
誕生

50種の
プログラム
を提供

自分らしく学ぶ体験を、すべての子どもたちへ

■ロート製薬 『ハートフルラーニングキャラバン』



ロート子どもの夢基金の助成を受け、病気や障がい、被災、地理的・経済などの理由で探究的な学びの機会を持ちにくい子どもたちのもとへ出向き、考える楽しさを味わうワークショップを開催。病院やフリースクール、子ども食堂などを舞台に、一人ひとりの特性や興味に寄り添い、安心感と自己肯定感を感じられるひとときを作りました。

また、子どもたちの学びに寄り添うための大人向け研修も実施し、取り組みが継続する体制づくりを行いました。

365名
が参加

全国
12カ所
で開催

市民のみなさんと、海の環境問題にアクション！

■ジョンソン株式会社（SC ジョンソン） 『海洋プラスチックのない世界を目指した環境教育プログラム』



ジョンソン株式会社の本社がある横浜市を中心に、海洋プラスチック問題をテーマにした環境教育を展開し、5年目を迎えました。小学校での出張授業、川や街の清掃、海の環境問題を学ぶ小中学生向け講座、プラスチックを素材にしたアップサイクル体験などを、多様なパートナーと協働しながら提供しました。心に残る体験を通して、海洋プラスチック問題への理解を深め、環境問題の解決に向けてアクションする人を増やす活動を続けています。

1027名
が参加

39回の
イベント



詳しくはこちら ▶

寄付金活用事業

ご支援いただいた寄付金や会費を活用して「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」を提供します。

PICK UP!

自然にふれるよろこびを、すべての人に。

■自主事業 『誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験』

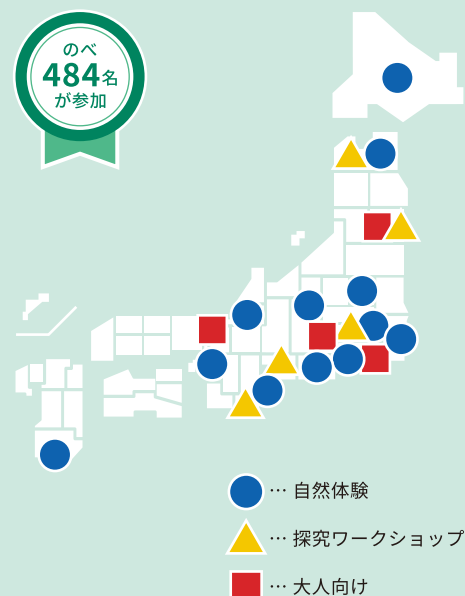


自然の中で思いきり遊ぶことは、子どもの感性を育む大切な時間です。さらに、大人にとってもストレス軽減など癒しの効果をもたらす重要な機会です。

しかし、家庭の経済状況や日々の忙しさなど、さまざまな事情から自然にふれる機会を持ちにくい方々もいます。経済的な理由だけでなく、時間や気持ちの余裕など、目に見えにくい壁も少なくありません。

JEEFでは、自然体験がすべての人にひらかれた機会となるよう、皆様からの寄付金を通して一人でも多くの方が自然とふれあえる場をつくり、自然体験を「特別なこと」ではなく「当たり前のこと」としていくための環境づくりを進めています。

開催地域マップ



たくさんの“はじめて”があるキャンプ！

全国
12地域
で開催
228名
が参加



全国の自然学校等と協働し、さまざまな理由で自然体験の場に参加できていない子どもたちに、自然とふれあう場を提供しています。

2025年度は生活困窮世帯、ひとり親世帯、難病の子どもと家族、発達障がいの子と家族、身体障がいの方向けにさまざまな自然体験を実施しました。

(協力団体：アースマンシップ、大阪体育大学、ホールアース自然学校、くすの木自然館、HUB&LABO Yakushima、大雪山自然学校、千葉自然学校、つがる野自然学校、グリーンウッド自然体験教育センター、サンカクシャ、とちぎ子ども自然体験活動ネットワーク、みんなのアウトドア、大杉谷自然学校)

すべての子どもたちに楽しい探究のチャンス！

170名
が参加



さまざまな理由で気軽に体験の場に出かけられない子どもたちに向けて、学ぶ楽しさを伝え、外の世界に興味をもつきっかけづくりをしています。

『探究ワークショップキャラバン』では全国各地の病院、放課後等デイサービス、児童養護施設、こども食堂、被災地などに伺って無料の探究ワークショップを提供しました。『オンライン生きものクラブ』では自宅療養中や入院中の子どもたちが、オンライン上で生きものの魅力にふれて同じ境遇の仲間たちと交流できる機会を提供しました。

ストレス社会で日々頑張る大人の癒しの機会

全国
4地域
で開催
86名
が参加



普段は仕事や家庭で忙しい大人こそ、自然とふれあって日頃の疲れを癒してほしい！林野庁によると、森林浴によるリラクゼーション効果は科学的検証により報告されています。

宮城、山梨では、森に身をゆだねて心と体を整えながら“自然と共にある暮らし”を見つめなおす『森で学ぶサステナビリティ』を開催しました。また、神奈川、京都では自然と調和したライフスタイルを学び、考える『大人のプチ遠足』を開催しました。

(協力団体：しんりん、キープ協会、国際自然大学校)

温かいご支援をいただきありがとうございました。
それぞれの活動の詳細は、報告レポートをご覧ください。▶



会員制度

JEEFの理念に賛同いただき、共に学び、考え、行動していく仲間を増やしていくことを目指します。会員の皆さまの力を持ち寄り、発揮していただける会員コミュニティをつくってまいります。自団体だけでは難しい複雑な課題の解決方針・方策を一緒に考えていきましょう。

会員数		※2026年4月1日現在
特別会員	9名	
正会員（団体／個人）	9団体／50名	
普通会員（団体／個人／学生）	36団体／335名／12名	
賛助会員	9団体	※50音順 カローラ株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社小学館、SOMPOホールディングス株式会社、瀧本株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社日能研、公益財団法人ニッセイ緑の財団

普通会員

環境教育について知りたい方、JEEFの活動を応援して下さる方はぜひ会員としてJEEFの活動にご参加ください。

団体 20,000 円／年
(入会金 10,000 円)
個人 6,000 円／年
(入会金なし)
学生 3,000 円／年
(入会金なし)

正会員

正会員は公益社団法人であるJEEFの法律上の社員です。年1回以上開催する社員総会において1票の議決権を持ち、JEEFの運営に直接関わります。

団体 80,000 円／年
(入会金 20,000 円)
個人 20,000 円／年
(入会金 10,000 円)

賛助会員

JEEFの活動を資金面でサポートしていただく会員です。
一口 100,000 円／年

※ 正会員と賛助会員は年度会費です。
(いつご入会されても4月～翌3月が会費期限になります。)
※ 団体普通会員（2万円）と賛助会員（一口10万円）は複数口の加入が可能です。
※ 普通会員の会費（個人のみ）は寄付金扱いとなり、税制上の優遇措置の対象となります。

【会員特典】

●機関誌「地球のこども」(年2回)、活動報告書(年1回)、会員限定メルマガ(月1回)、イベントへの参加ご優待(割引など)、メルマガ「身近メール」への情報掲載(月1回)を致します。

●新たにJEEFの会員になっていただいた方には、JEEFピンバッジとJEEFオリジナルステッカーを差し上げます。



会員・寄付についての詳細は <https://jeef.or.jp/joinus/> をご覧ください。



寄付制度

皆さまからの温かいご支援を活用して、“誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験”をテーマに、身体的・経済的・地域的な理由等で環境教育や自然体験のプログラム参加が少ない方々への機会をつくっていきます。

いただいた寄付の活用方法

活用例

- ・ひとり親世帯、生活困窮世帯の子どもたち、重い病気と闘う子どもたち、障がいをもつ子どもたちも参加できる自然体験や体験的な学びの機会を提供
- ・ストレス社会で頑張る大人たちのための癒しの機会を提供
- ・「誰ひとり取り残さない環境教育」の輪を広げるための指導者養成やシンポジウム等を開催

※詳細は P.15～16 をご確認ください。

寄付の方法



任意の金額を1回寄付

お好きなタイミングで、寄付いただけます。



マンスリー寄付

毎月、任意の金額を寄付いただけます。



©東京マラソン財団

スポーツチャリティで寄付

JEEF は東京マラソン 2026 チャリティの寄付先団体です。チャリティランナーや寄付によるご支援等で参加いただけます。



買い物で寄付

モンベルクラブ「JEEF サポートカード」、ZERO PC「想うプロジェクト」など、買い物することで購入金額の一部が JEEF への寄付となります。



Giving December

JEEF は寄付月間（Giving December）の理念に賛同し、パートナーとして参加しています。

【寄付特典】

●寄付をくださった方には、JEEFオリジナルグッズをプレゼントいたします。

寄付に関する詳細は <https://www.jeef.or.jp/joinus/#tab02> をご覧ください。



会計報告

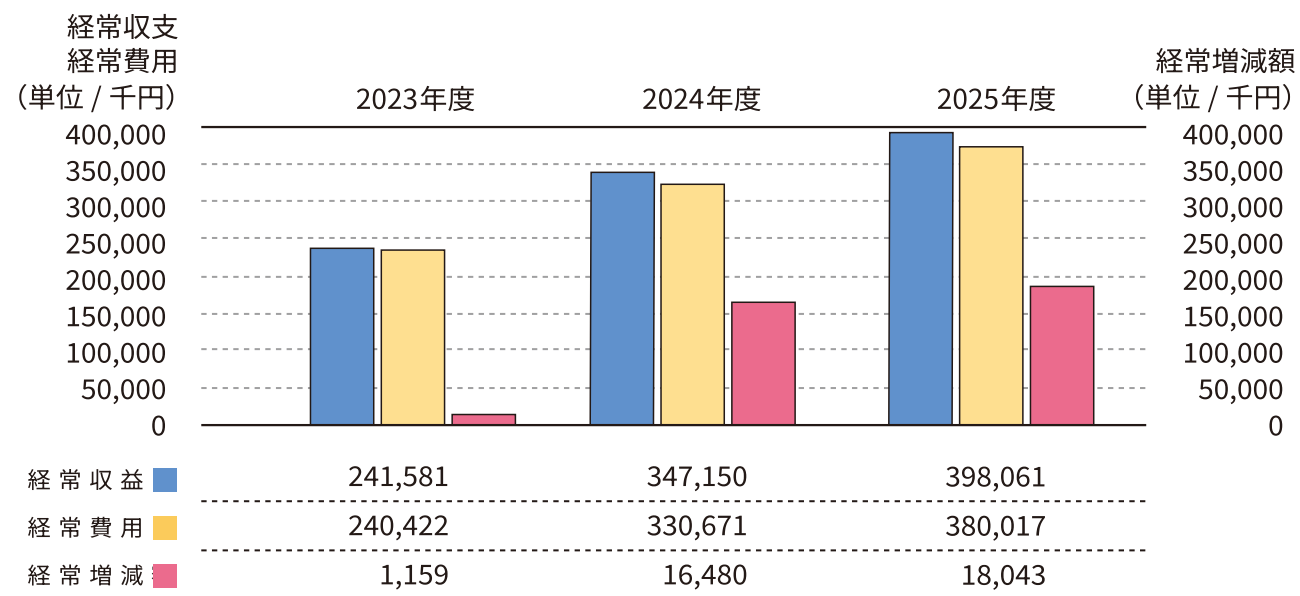
総評

2025年度は、国内外における環境教育・ESD事業を着実に展開するとともに、多様な主体との連携を通じて新たな取り組みを推進することができました。こうした活動の積み重ねにより、安定した財務基盤の維持につながり、持続的な事業運営を進めることができています。

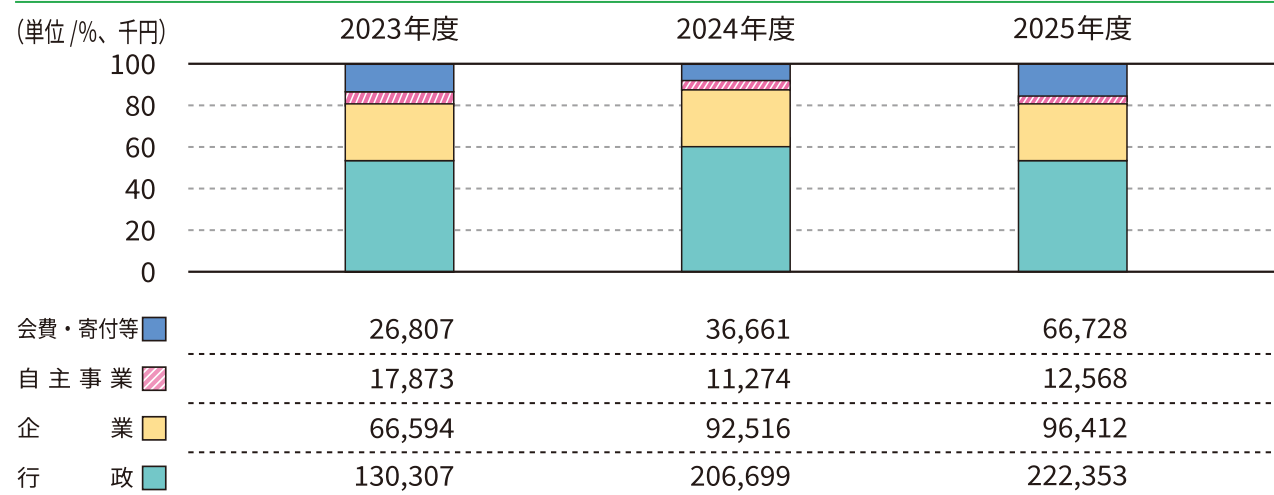
環境・社会・経済をめぐる課題が複雑化する中、JEEF、ELMSセンター、ESD活動支援センターを軸に、多様なパートナーとの協働を通じて、人々の行動変容や地域・社会の変革につながる環境教育・ESDを引き続き推進してまいります。

事務局長 加藤 超大

経常収支



経常収益の内訳



役員一覧

会 長	岡 島 成 行	特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会 会長
理 事 長	阿 部 治	立教大学 名誉教授
専務理事	高 野 孝 子	特定非営利活動法人ECOPLUS 代表理事 早稲田大学文学学術院 教授
理 事	安 西 英 明	公益財団法人日本野鳥の会 参与
	菅 山 明 美	株式会社ハッピーエンジン 代表取締役
	鈴 木 和 信	日本大学国際関係学部 教授
	高 木 幹 夫	株式会社日能研 代表取締役会長
	田 中 泰	特定非営利活動法人白川郷自然共生フォーラム 理事長
	西 村 仁 志	環境共育事務所カラズ 代表
	萩原 なつ子	立教大学 名誉教授 公益財団法人ミダス財団 シニアフェロー
	福 井 光 彦	青森大学総合経営学部 特任教授
	藤 田 香	東北大学グリーン未来創造機構 大学院生命科学研究科 教授
	古 屋 悠	株式会社イキモノ 代表取締役
	森 高 一	特定非営利活動法人日本エコツーリズムセンター 共同代表理事 株式会社森企画 代表取締役
	山 田 健	サントリーホールディングス株式会社 MBC 開発研究所 兼 サステナビリティ経営推進本部 シニアアドバイザー
監 事	佐 藤 寿 一	佐藤寿一税理士事務所 税理士
	渡 邊 綱 男	一般財団法人自然環境研究センター 副理事長

JEEFのあゆみ

このページでは、多くの支援者やステークホルダーの皆さまと一緒に歩んできたJEEFの足跡を抜粋し、ご紹介いたします。

これからも引き続き、皆さまと一緒に未来に向かって歩んでまいります。

- 1987 ● 第1回清里フォーラム 開催（現：清里ミーティング）
- 1992 ● 日本環境教育フォーラム設立

「日本型環境教育の提案」の出版により「清里環境教育フォーラム実行委員会」は目的を達成し、解散する予定でした。しかし、フォーラム参加者のネットワークをここで途切らせるのはもったいない、活動をぜひ続けようという声があがり、任意団体として JEEF が発足しました。



- 「日本型環境教育の提案」出版

- 1993 ● 機関誌「地球のこども」発刊
- 「市民のための環境公開講座」開始
- 「アメリカン・ネイチャー・ライブラリー」発刊



- 1994 ● 「インタープリテーション入門」出版

- 1996 ● シンポジウム「自然学校宣言」開催

- 1997 ● 環境庁所管「社団法人」へ移行

- 2000 ● 「自然学校指導者養成講座」開始
- 「日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）」開始
- 「日本型環境教育の提案」改訂新版出版



- 2001 ● ジャパン GEMS センター設置

- 2002 ● インドネシア事務所設置



- 2004 ● JEEF 憲章制定

- 2005 ● 愛・地球博「森の自然学校・里の自然学校」開校



- 2008 ● 「日本型環境教育の知恵」出版
- 2010 ● 内閣府所管「公益社団法人」へ移行
- 2013 ● 「東京シニア自然大学」開校

- バングラデシュでの事業開始



- 2017 ● 設立 25 周年記念シンポジウム「環境教育の未来を考える」開催

- 経団連自然保護基金 25 周年記念事業「SATO YAMA UMI プロジェクト」



- 2018 ● 清里ミーティングが「環境大臣賞」を受賞

- 2020 ● 「新型コロナウイルスによる自然学校等への影響調査」を実施
- 「第 8 回エクセレント NPO 大賞」の「組織力賞」を受賞



- 2022 ● 設立 30 周年
- 「東京シニア自然大学」が「東京ネイチャーアカデミー」に改称

- 2024 ○ ELMS センター設置

ジャパンGEMSセンターが名称をELMSセンターへと変更し、新たな探究的な学びのセンターとして再スタートしました。

HPはこちら



- ESD 活動支援センターの運営事業が開始

日本全国のESDを支援していくために、民間団体との連携事業として文部科学省及び環境省によって2016年に設置された官民協働のプラットフォームです。2024年度より受託しています。

HPはこちら

